

数値でみる中国の介護

今回は数値データをもとに中国の介護業界をみてみたいと思います。

中国における全人口約14億人のうち65歳以上の人口は約1億6700万人で、そのうち要介護者数は約4300万人です。要介護者の年平均増加数は150万人以上

で、今後増加していくと言われています。また、平均寿命(2018年時点で77歳)も伸びており、ますます介護市場は巨大化していくと推測されています。

一方、一人っ子政策の影響により合計特殊出生率は急激に低下。16年の出生率は1.62人であり、これは米国や英国の出生

率を下回っています。

このように少子高齢化が進む中国では、これまでも高齢者施設の整備を進めてきましたが、まだ十分ではありません。中国には養老施設が16万8000カ所、介護ベッドが727万1000床あります(18年末時点)。

ベッド数は前年比より約3.3%増加しましたが、人口1000人当たりのベッド数は前年比1.8床少ない29.1床であり、2年連続減少しています。先進国基準の「人口1000人当たり50〜70床」を大幅に下回っているのが現状です。11年に国務院が「人口1000人当たり30床」

課題 不足 数ベッドも進む整備

を整備目標として掲げたため、一時はベッド数が急増したものの、高齢者人口の増加に追い付かず、供給不足に陥っています。

ちなみにベッド保有率第一位の地域は陝西省で、人口1000人当たりのベッド数は32.7床です。すでに完成または運営を開始している養老機関は9538カ所あるほか、省内では200余りの拠点において、医养結合事業(医・介一体化)が全面的に推進されています。これらを支えているのは、30ほどある在宅養

老サービスの情報プラットフォームです。中国では陝西省のように需給バランスがなんとか安定している地域もあるものの、このような事例は珍しいものであり、ほとんどの地域では、需対応できるだけのサービス整備が行き届いていないのが実態です。

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理
稲田義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。